

京都天文學會

談話會記事

1931年度

第十一回（花山） 昭和六年九月二十二日 座長 竹田助教授

今回は第二學期に於ける第一回目の談話會である。

1. 中村要氏は小遊星觀測のために撮影した赤經 0時57分、赤緯 -16.5 度の星野にうつてゐる小遊星の中、豫報位置と距りの大きいものに就いて報告された。多分新發見のものであらうとのこと。

2. 村上理學士は次の論文を紹介された。

J. M. Losh: The Spectrum of γ Tauri (牛座 γ 星のスペクトル) [Pub. Michigan IV, No. 1] この星のスペクトル型は B3p型であるがスペクトル線の移動が特異性を示してゐる。大體の状況は分光連星として説明つくが細かい變化について種々の假設を與へてゐる。

3. 山本教授 太陽のコロナの形狀が太陽活動週期と共に變化することはずつと以前から注目されてゐることであるが、此の事に關する最近の詳しい研究を紹介された。

イ) Lockyer: On the Relationship between the Solar Prominences and the Forms of the Corona(太陽紅焰とコロナの形態との關係に就て)[M. N. R. A. S. XCI No. 7]

ロ) W. E. Bernheimer: Ueber die Formaenderungen der Sonnenkorona in Verlauf des 11-jaehrigen Zyklus (十一年週期に關係して太陽コロナの形態の變化することに就て) [Lund Meddelande Ser. I. No. 126 又ハ Arkiv 22A No. 25]

太陽活動週期の今後の觀測に對して暗示に富んだものであつた。出席者からの質問や意見の交換があつた。

第十二回（花山） 十月六日 座長 上田教授

1. 上田教授が現今用ひられてゐる計算機械に就いて説明された。大體次の四種の型式に分類される。1. Lever set 2. Key-board set 3. Millionaire 4. Adding and Listing Machine

尙次週は大學の Sports-week につき談話會を休むことにした。

第十三回（教室） 十月廿日 座長 山本教授

1. 山本教授 花山の氣象に就て 京都測候所で得た結果と花山天文臺で過去一年間觀測して得た結果との比較。花山の氣象に多少の特異性を認め得る様である。

第十四回 (花山) 十月廿七日

座長 竹田 助 教 授

1. 山本教授 花山の緯度観測の結果に就て、今までの観測を新しく算出して次の値を得た。北緯34度59分39秒。従来は少し小さく見過ぎてゐた。

2 上田教授 陽炎 (かげらふ) の天文観測に 及ぼす 影響。幻燈を使用して Schintillation (空氣の動搖のための閃動) に關する最近の實驗の報告をされた。

3 森川理學士は Longitude Determination at Tartu by Wireless (タルトゥ天文臺に於ける無線に依る經度決定) について紹介された。タルトゥ天文臺の經度は1時46分53.180秒。平均誤差 ± 0.004 秒。

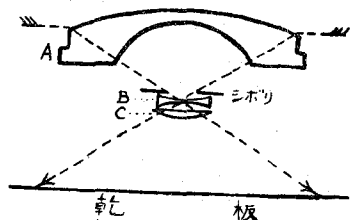
第十五回 (花山) 十一月十七日

座長 上 田 教 授

1. 中村要氏はE. M. 2 ...の記事に依り漸く組立てられたばかりのストックホルムの大寫眞望遠鏡に就いて紹介された。

2 氏 (上田教授紹介) は米國の大學生々活について説明し所感を述べられた。今までの生涯の大部分を米國で送られた人である。

3. 稻葉理學士は近時有名になつた魚眼レンズ Cloud Camera の構造について説明された後、實物を手にとつて觀、且出席者一同を稻葉氏諸共一枚の乾板に收めた。(本誌本年一月號の寫眞參照)



魚眼レンズの構造 { A, B, C: レンズ
..... 光線の通路

第十六回 (教室) 十一月廿四日

此の日は多數の人が不在であつたため別にまとまつた話がなく簡単に終へた。

第十七回 (花山) 十二月一日

座長 上 島 講 師

1. 上田教授は東京天文臺、科學博物館、水澤緯度観測所訪問の興味深い土産話をされた。頗る面白かつた (大體土産話と云ふものは面白いものだ)。

2. 稻葉理學士は Photographic Transit (子午線經過寫眞観測) に就ての大體を説明され、現在花山に於ける観測にこれを利用することの不適當なることを結論された。

會 員 諸 氏 に 訴 ふ !!

本會の健全なる發達のため、是非、各員が一名づつの (或は其れ以上の) 新會員を御勧誘ありたし。

會員、申込書、天界見本が御入用ならばいくらかでも進呈します。

天 文 同 好 會